

# 市立五條文化博物館《ごじょうばうむ》 夏季企画

## 夏季博物館講座

- 7月29日 (日)
  - テーマ 「紀和国境としての真土峠の意義」
  - 講師 吉田栄治郎先生  
(奈良県立同和問題関係史料センター所長)
- 8月5日 (日)
  - テーマ 「永正・大永期の畠山の抗争と宇智郡」
  - 講師 岩倉哲夫先生  
(和歌山県立橋本高等学校教諭)
- 8月19日 (日)
  - テーマ 「古民家再生にける想い  
—登録文化財藤岡家住宅修復に携わって—」
  - 講師 柴田正輝先生 (大工棟梁)
- 3回とも
  - 時間 午後2時～4時  
時間に合わせてJR五条駅北口から無料送迎バスが出ます
  - 会場 市立五條文化博物館1階研修室
  - 受講料 無料
  - 定員 50人 (事前に申し込んでください)

## 夏季企画展「藤岡家文書からみた近世の村」

- 会期 7月28日 (土)～9月2日 (日)  
(毎週月曜日休館)
- 会場 市立五條文化博物館3階特別展示室
- 主催 市立五條文化博物館

## 夏休み子ども講座

- 7月21日 (土) 午前9時30分～11時30分
  - テーマ 「陶芸教室—手作りで器を作ろう—」A
  - 講師 山田恭介先生
- 7月21日 (土) 午後1時30分～3時30分
  - テーマ 「陶芸教室—手作りで器を作ろう—」B
  - 講師 山田恭介先生
- 8月4日 (土) 午前9時30分～11時30分
  - テーマ 「折り紙の不思議にチャレンジ」
  - 講師 原田キョウ先生
- 8月25日 (土) 午前9時30分～11時30分
  - テーマ 「自分だけのはんこを作ろう」
  - 講師 山本添山先生
- 4回とも
  - 集合 市立五條文化博物館  
(陶芸教室のみ、博物館から会場となる先生の工房へ送迎します。)
  - 対象 市内の小学校4・5・6年生
  - 定員 20人 (事前に申し込んでください)
  - 参加費 無料  
(ただし材料費として500円程度が必要です)

■博物館夏季企画への参加申込・問合せ先 市立五條文化博物館 ☎24・2011

## 新町と松倉豊後守重政

### 第4回「松倉豊後守重政と島原城」

6月号では、松倉豊後守重政が8年ばかり二見城にあって宇智郡を領知し、「大坂夏の陣」で再び軍功をあげ、元和2(1616)年7月重政43歳の時、肥前の国日野江城(4万3千石)の大名として大抜擢されたことをお話ししました。今回はその後の島原における松倉重政のお話です。

徳川家康は「大坂夏の陣」の翌年元和2(1616)年4月に亡くなりますが、死の直前に重政を枕元に呼んで5千石の加増(一説に1万石)を命じたことが、『徳川実紀』に書かれています。さらに3か月後の7月には、島原4万3千石の城主として移封を命じられており、いかに重政が徳川家康から、さらに徳川幕府から厚い信頼を受けていたかが推察されます。当時九州の地は豊臣恩顧の残党が潜んでおり、その目付、取り締まりの重責を担って派遣されたものと考えられます。

島原に入部した重政が、最初に行ったのは、島原城の築城と城下町の建設です。それまでの有馬一族の日野江城や原城が手狭で、攻撃に弱いと見た重政は、島原の森岳という小高い山を中心に島原城を築城しました。元和4(1618)年に築城を開始し、7年の歳月を費やして寛永元(1624)年に完成しています。

島原城の外郭は、東西190間半(346m余)、南北660間半(1200m余)、内郭には、総高17間余の五層の天守閣をもつ本

丸とその北側に二の丸があって周囲に堀を巡らしています。さらにその北側には花鳥の丸(三の丸)を配し、合計41の平櫓と5個の櫓門を有する豪壮な城構えです。また、周辺に武家屋敷や町人屋敷を配して、諸方から商工業者を招いて、新しい城下町を建設しました。新町創設を思い起こさせる話ですが、町家の規模は家数1,000軒とも言われ、当地の新町を遥かに凌ぐ規模であり、重政の颯爽とした姿が目に見えようです。

築城にあたって数々の創意工夫が施された島原城は、築城に造詣が深いとされた重政の築城技術の高さを示しており、天下の名城として、その後の島原藩代々の藩主の居城となり、明治初年まで受け継がれました。

このように松倉豊後守重政は、大名としての支配体制を確立するため、島原城と城下町を整備しましたが、藩の石高に比べその規模は大きすぎたようです。また、家臣団の構成も十萬石に匹敵するものであったと伝えられており、江戸城馬場先門の石垣普請を命ぜられたおりも、十萬石の課役を申請して希望のとおり許可されています。九州の目付として、恩顧を蒙った徳川家に報いんとした気持ちが、身の丈に不相応な藩の経営を強いたのかも知れません。結果としてその後の厳しい検地等の重税につながり、領民を苦しめることになったようです。

(参考文献：長崎県史編集委員会編集「長崎県史」)

(新町と松倉豊後守重政400年記念事業実行委員会委員長 榎野久春)